2013 12/10
No.1960
毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—

第33回横浜マラソン大会が１日、山下公園前をスタート、山下ふ頭にゴールするコースで行われた。男女の10キロロードレースに5939人が参加。市民参加型のフルマラソン「横浜マラソン2015」の開催が決まり、現在の形では最後の大会。

神奈川新聞社

政経かながわ

2013 12/10 No.1960

contents

視点・点描 3
「追い風」生かし発展期待

経　済 4
ビッグスリー復活の兆し
破綻で人件費削減効果

経　済 6
地域、産業別で大きい温度差
経営者が見る東京五輪

企業最前線 8
医療周辺分野に商機
物流、照明など体制強化

くらし2013 10
うつ病に伴う体の痛み

広告珍談 12
～うまい物がたり㉘
ショウユだと？

NNAアジア経済リポート 13

会員のページ 14
ミャンマー経済セミナーの開催報告
会員の動き

会員のページ 15
2013年度国内視察研修会の報告

事務局だより

◇横浜定例講演会
2013年12月11日（水）
13時30分～15時
崎陽軒　5階「マンダリン」
講師は神奈川新聞社論説主幹の中嶌　弘孝氏、共同通信社政治部長の鈴木　博之氏、同社経済部長の谷口　誠氏、同社外信部長の藤井　靖氏
演題は「2014年の動向を読む」

◇横浜定例講演会
2014年1月29日（水）
14時～15時30分
横浜情報文化センター　6階「情文ホール」
講師は全日本柔道男子監督、東海大学講師の井上　康生氏
演題は「夢への挑戦～私の柔道人生」

視点点描

「追い風」生かし発展期待

ことし1月、経済部を担当するようになり、取材や会合で横浜・みなとみらい21（ＭＭ21）地区を訪れる機会が増えた。これまでより、人の往来が多くなったように感じている。

どうやら勝手な思い込みではないようだ。横浜高速鉄道によると、昨年4月から8月までの利用者は6駅合計で約２６５５万５千人だったのに対し、ことし4月から8月までの利用者は約２９４２万4千人で、約1割増えている。特に顕著なのはみなとみらい駅。ことし8月は昨年8月と比べて3割を超す人が利用している。

これだけみなとみらい線の利用者が増えていれば、ＭＭ21地区がにぎわうのも当然であろう。これには二つの要素が「追い風」となっている。

一つは、3月16日に始まった相互直通運転である。横浜高速鉄道みなとみらい線、東急東横線、東京メトロ副都心線、東武東上線、西武有楽町・池袋線の5路線が1本で結ばれ、乗り換えなしで埼玉県と横浜市中心部を行き来できるようになった。川越をはじめ埼玉の人たちがＭＭ21地区の観光を楽しむ姿が目立つ。

もう一つは「ＭＡＲＫ　ＩＳ　みなとみらい」の6月開業だ。映像施設、レストランなどが人気を集めている。東京ガス横浜ショールームクッキングスタジオの料理教室には、たくさん申し込みがあるという。みなとみらい駅の改札口を出てすぐ、マークイズ店内に入られることも「とても便利」と客から好評だ。

ＭＭ21地区は11月、事業着工から30年を迎えた。この「追い風」をぜひ、生かしたいものである。

経済状況に翻弄されながらも変わり続け、企業集積地、国際観光地、商業地、住宅地と多彩な〝顔〟を生み出してきたが、まちづくりはまだ道半ばだ。さらなる発展を遂げることを期待したい。

ただ、企業誘致は順風満帆とは言い難い。ビジネス情報の集まる首都東京から本社を呼び込むことは思うように進んでいない。２０２０年の東京五輪開催決定を受け、都心で再開発の機運も高まっている。

この厳しい状況を打開するには、官・民・産・学が一体となって知恵を出し合い、思い切った施策の展開も必要なのではないか。ダイエー会長などを歴任した横浜市の林文子市長には、その先頭に立って手腕を発揮してほしい。

（神奈川新聞社経済部長　石曽根　剛）

宮野　力哉

ショウユだと？

幼いころに聞いたことばは、いつまでも耳に残っている。

リスボンハツドウメイ、何のことか分からなかった。少し大きくなって「リスボン発・同盟」と知った。つまり同盟通信のニュースである。ポルトガルの首都リスボン、この音楽的なひびきは、いまも耳の奥深くにひそんでいる。

マカオでポルトガル料理を食べた。同行の物知りが、カステラもコンペイトーもザボンも、テンプラもバッテラもパンも、ヒョウズもボーロも、ぜんぶポルトガルから渡ってきた。つまりポルトガル語だと聞かされた。

ふぅーんと感心していると、オルガン、カッパ、カルタ、カルメラ、カンテラ、キリシタン、コップ、サボテン、ジバン、ジョウロ、チャルメラ、トタン、バテレン、ビーダマ、ビードロ、フラスコ、ブランコ、ボタン、ラシャなどなど、どれもこれもポルトガル語だと、物知り博士はつづけた。

支払いになってマネージャー（ポルトガル語ではなさそうね）が、しょうゆ注ぎを指してボクにウインクした。ポルトガル語では、こういうと教えたかったらしい。

しょうゆを英語では（Soy sauce）ソイ・ソース

フランス語では（Sauce de soja）ソース・ドゥ・ソジャ

イタリア語では（Salsa di soya）サルサ・ディ・ソイア

ドイツ語では（Soja sosse）ゾヤ・ゾーゼ、というそうだ。

ポルトガル語ではこういうと、覚えておけばよかった。こんな広告がある。

「ショウユ？　シリマセン」

「キッコーマン　シッテマス」

しょうゆは知らなくても、キッコーマンなら知ってると。うまいなー、まさに万国的調味料と認められた自信が、こう書かせたにちがいない。イラストは、キッコーマンのイメージを確立したといえる大橋正。

キッコーマンは創業当初、「亀甲万」といった。亀甲は地元、下総の香取神宮（鹿島神宮とともに軍神として尊崇）の山号「亀甲山」に由来する。亀甲のマークは香取神宮のご神宝「三盛亀甲紋松鶴鏡」から図案化され、「萬」の字を入れたという。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）

（図） キッコーマンの広告・昭和30年代の掲出